

中国中西部開発の中心のひとつ・重慶市について

上海産業情報センター

横江 隆弘

今月は、中国の中西部地域の開発の主要な地域の一つとなっている重慶市についてその概要を報告します。重慶市といえば、中国最大の重工業地域として有名であり、訪れた人からも空気はあまりきれいでないし、工事などでほこりもかなりひどいと聞かされてきました。今回訪問してみたところ、わずかな滞在ではありましたが、噂に聞いていた状況とは異なり地域の状況が想像していた以上に発展していることに驚かされました。また、三峡ダム建設にも深い関係があり、ダム建設により水上交通だけでなく様々な分野に大きな発展をもたらしています。

1 重慶市の概況

重慶市は、中国西南地域の東側にあり、長江（揚子江）を上海から2,500キロメートル遡ったところに位置しています。人口約3,200万人（因みに上海市は、約2,200万人）であり、面積は8万2,400平方キロメートルでほぼ北海道に匹敵する位あります。また、重慶市は北京市、上海市、天津市と同様に中国直轄市の一つとして1997年に認定されており、中国五大都市（ほかに北京、上海、広州、深セン）のひとつでもあります。

2010年の重慶市のGDPの総額は、約7800億元であり、一人当たりGDPは、約4,000ドルであり、中国全体の数字よりも低い数字となっています。しかし、重慶市の市場のポテンシャルは非常に高く、マーケットの拡大も間違いないでしょう。現在の中国の都市化率は、まだ40%であり、今後15～20年の期間で約3億人が都市部に流入してくることが予想されています。

重慶市は、四方を山に囲まれ、長江と嘉陵江の合流する地点は、半島のような形状をしています。地盤も非常に堅固であるため、地下鉄も建設されていますが、モノレールの建設も進んでいます。また、中国では珍しく、高速道路の立体交差が非常に多く、その状況をみるとますます重慶が発展している地域であると印象づけられることとなります。あたかもニューヨークあるいは香港に来ているのではないかという感覚を受けた次第です。重慶市を走っているまるでイエローキャブのようなタクシーは、スズキ自動車の現地合弁企業である重

慶長安鈴木自動車の生産した車がほとんどを占めている状況であります。スズキ自動車は、1990年代末に重慶市にすでに進出をして、2005年には約1万台の自動車の生産をしておりましたが、現在では10万台の生産を実現し、売上が約100億元、利益が17、8億元に達している（重慶市幹部の発言）とのことです。他に日本企業は、約600社が重慶市に進出している状況ですが、駐在する人員で比較すると、やはりここでも韓国勢に大きく水を空けられている状況が街を歩いてみるとすぐに感じ取れます。

2 重慶市の将来像について

重慶市をリードしていく現在のリーダーは、市書記が前商務部長で、遼寧省省長及び大連市長で外資導入に大きな実績を持ち、その才覚が広く認知されている薄熙来氏であり、市長が黄奇帆氏といい、かつて上海浦東新区管理委員会副委員長として、浦東新区の発展に寄与した人であります。彼らが中心となり、重慶市の未来図を政策の面から、構想の面から支えています。

政策の面では、「重慶市 5つの低コスト」というプランがあります。

① 税金の低い重慶市

沿海部等の他の地域では、所得税が25%であります。不動産業を除いて15%にするとしています。

② 物流コストの低い重慶市

物流コストを15%~20%下げる目標を示しており、方策として1万キロに及ぶ高速道路料金を無料にしようと考えています。

③ 不動産コストの低下

④ 資源・エネルギー 光熱水費の安い重慶市

⑤ 低いコスト・利率での融資の提供

また、重慶市を内陸部の交通のハブにする政策も進められています。昔から水運が発達していましたが、三峡ダムの完成後は1万トン級の船舶も直接重慶まで航行することができるようになり、併せて整備される保税区との相乗効果で重慶港は内陸の国際コンテナターミナルとして大きな発展をめざすとともに、内陸で生産したモノは、内陸で通関できるような仕組みをも構築しようとしています。

さらに、3つのプロジェクトが将来的な構想として計画されています。一つは、日本のパソコンの部品の40%を生産したいという構想であり、すでにヒューレッドパッカード、Acer、フォックスコンなどのIT企業が進出しており、1億台のパソコン生産基地も実現されることになっているそうです。重慶でパソコン部品の80%を調達できるようにしたいという構想も進められて

います。

二つ目は、欧米のデータセンターの設立構想です。1,000万台のコンピューターを利用する計画のようです。

最後の3つ目は、化学工業、非鉄金属・ハイテク産業などを中心とした産業基地建設の構想である。

2010年6月に「重慶両江新区」が正式に設立されました。この両江新区は、上海浦東新区、天津濱海新区に続いて国務院が直接批准した中国内陸部で唯一の国家レベル開発・開放新区です。

両江新区には、次の5つの機能エリアがあります。

- ① 都市・農村の総合改革実験のパイロットエリア
- ② 内陸における重要な先進製造業と現代サービス業の基地
- ③ 長江上流地域の金融中心とイノベーションの中心
- ④ 内陸地域が対外開放する重要な門戸
- ⑤ 科学的発展のモデル地区

また、両江新区には、中国内陸部唯一の保税港区である「両路寸灘保税港区」があります。ここは、港湾と空港の2つの機能を有しています。

この保税港区は、①港口作業区、②輸出加工区、③在庫物流区、④金融・貿易業務管理区に区分され、それぞれの機能を発展させています。

さらに、両江新区のなかには、日本産業パークを設立させて、日本の中小企業とのコンタクトを密にして、相互に補完、協力し合いwin-winの関係を築いていきたいとも考えられているようです。